

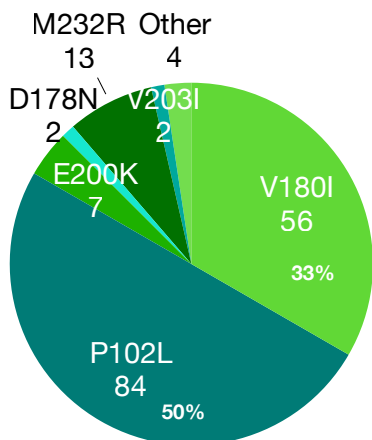
# 九州・山口・沖縄地区のP102LとV180I変異の頻度と発症年齢の分布

研究分担者:九州大学病院 氏名 松下 拓也

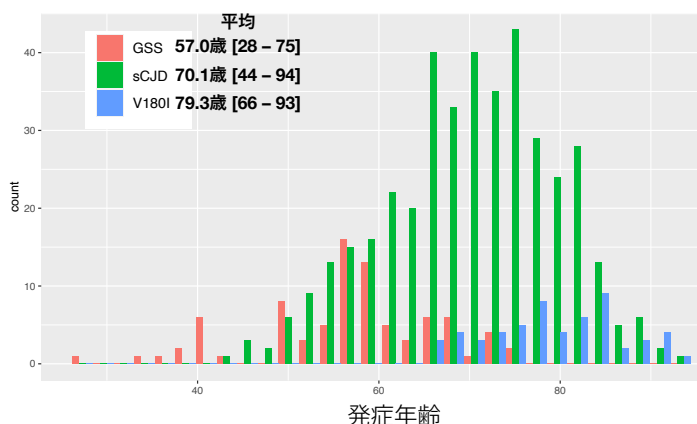
## 1999年～2019年のプリオン病の内訳

県	症例数	sCJD	dCJD	fCJD	GSS	FFI
山口	47	32	1	13	1	0
福岡	207	142	4	34	26	1
佐賀	46	22	0	3	21	0
長崎	40	34	0	6	0	0
熊本	39	34	0	4	1	0
大分	42	35	0	7	0	0
宮崎	34	29	0	2	3	0
鹿児島	80	39	0	9	32	0
沖縄	46	39	1	6	0	0
<b>計</b>	<b>581</b>	<b>406</b>	<b>6</b>	<b>84</b>	<b>84</b>	<b>1</b>

## 遺伝性プリオン病の遺伝子異常



## sCJD, V180I gCJD, P102L GSSの発症年齢の分布



## 解説

- 1999年～2019年までの期間で九州・山口・沖縄地区でプリオン病と判断された例は581例であった。
- P102L GSSは遺伝性プリオン病の50%を占め、V180I gCJDは33%であった。
- P102L GSSの発症年齢はV180I gCJDやsCJDと異なり、二峰性の分布を呈する。